



皆野中だより

12月号



令和6年12月2日発行 第9号

皆野町立皆野中学校 TEL 62-0432 FAX 62-0076

【校 訓】剛き意志 深き愛 自由の胸 純なるこころ

【学校教育目標】「主体性」「社会性」「将来性」を培う生徒の育成

【めざす学校像のキーワード】心理的安全性とウェルビーイング

生徒数 1年76名 2年73名 3年85名 合計234名

努力する人は希望を語る

校長 板倉邦弘

11月中には、学校公開とすべての学年で生徒・保護者・担任の三者面談を実施しました。お仕事等の都合をつけてご来校いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。今後も保護者の皆様との連携を密にし、お子さんの教育活動にあたっていきたいと思います。また、5日の起業家講座、18日の俳句教室と、外部の方を講師に招いての行事を実施し、生徒には良い刺激になったことと確信しています。12月にも「夢・志講演会」と題してプロバレーボールコーチで青年海外協力隊の経験をお持ちの三枝大地さんを招いて講演会を予定しています。お時間の許す保護者の方は、ぜひご参加いただければと思います。

さて、今回は作家・井上 靖さんの名言「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」という言葉を取り上げます。まず私が共感できるこの言葉の解説をインターネットで見つけたので、そのまま紹介します。

「その人が希望を語っていれば『この人は努力する人』なのだと分かります。逆に不満を語っていれば『この人は怠ける人』なのだと分かります。両者の違いは、結果としても明らかになるでしょう。怠ける人より努力する人が結果を出すのは明らかです。両者を分けるものは、どこに目を向けるかであり、怠けようとする自分に打ち勝てるかどうかです。どうも我々は、つつい現状の不満ばかりに目を向け、努力を怠るクセがあるようです。本当は、不満があるから怠けるというより、怠けたいから不満を探す、と言う方が適切かも知れません。そうならないために、我々は意識的に希望に目を向けていく努力が必要なのかも知れません。折に触れ、この言葉を思い出し、今の自分はどちらなのか自分自身に問いたくなります。そして、もちろん希望を語る人でありたいものです。」

何もかもうまくいかないとき、つい不満をもらしたくなる気持ちは誰でもあります。私自身にもそういう時があります。しかし、不平や不満を口にしても何も解決しません。また、不平や不満を聞いて気持ち良くなる人はどこにもいません。「ああ、そうですか。あなたが悪いのではないのですね。」などと同情する人もいません。逆に「あなたは自分のことは棚に上げて、他人のせいにしてしまう怠け者なのですね。」と思われてしまうかも知れません。

希望に満ちた言葉は、自分も周りの人も元気にする力を持っています。元気をもらった周りの人の応援も得られるので、自ずと結果もついてきます。来月1月10日（金）には、生徒の「夢・志発表会」を実施します。生徒一人一人がそれぞれの夢や志（前向きな希望）を語り、元気を与えあい、努力できる人になるきっかけにしたいと考えています。